2018 年度数学教育学会夏季研究会（関東エリア）案内

（主催）一般社団法人数学教育学会　（後援）国立大学法人埼玉大学

松嵜昭雄（夏季研究会（関東エリア）実行委員長・埼玉大学）

埼玉大学において，2018 年度数学教育学会夏季研究会（関東エリア）を開催します。ふるってご参加下さい。

１．日程　2018 年8 月29 日（水）

２．会場　埼玉大学　教育学部A棟（A113プロジェクト室・A114講義室）

〒338-8570さいたま市桜区下大久保255（http://www.saitama-u.ac.jp/）

＜アクセス＞

・JR京浜東北線「北浦和駅」西口下車→バス「埼玉大学」ゆき（終点）

・JR埼京線「南与野駅」下車→北入口バス停から「埼玉大学」ゆき（終点）

・JR埼京線「南与野駅」下車→西口バス停から全ての便が埼玉大学を経由します

・東武東上線「志木駅」東口下車→バス「南与野駅西口」ゆき（「埼玉大学」下車）

３．実行委員会

委員長：松嵜昭雄（埼玉大学）

委　員：白石和夫（文教大学），石井　勉（文教大学）

顧　問：齋藤　昇（鳴門教育大学名誉教授）

４．プログラム

一般発表（午前の部）10：00～12：55　　　（会場）A114講義室

10：00　Out Schoolについて（脱学校教育）

渡辺　信（生涯学習数学研究所）

10：25　確率判断と意思決定に着目した数学授業に向けた考察（仮）

－漫画『カイジ』に登場するゲーム「Eカード」を用いて－

長竹翔吾（埼玉大学教育学部，学部生）

10：50　確率の算数授業提案に向けた現代化当時の教科書検討（仮）

本間太陽（埼玉大学教育学部，学部生）

　　11：15　速さを考える状況で生じるつまずきについての考察（仮）

角松詩織（埼玉大学教育学部，学部生）

11：40　離散グラフのモデリング教材の条件に関する一考察（仮）

－*n*筆書きに焦点をあてて－

上田凜太郎（東京都立練馬工業高等学校）

　　12：05　ビーチバレー問題への回答に関する一考察（仮）

－被験者の指標化に焦点を当てて－

竹井丈広（埼玉大学教育学研究科，大学院生）

　　12：30　ジグソー学習法を取り入れた数学授業の実践報告（仮）

－異なる立場に立った学習者によるグループ活動を通して－

塚原康介（筑波大学附属坂戸高等学校）

ラウンドテーブル　13：30～15：30　　　（会場）A113プロジェクト室

－この数学，一体どんなところで使うの？と訊かれたら－

これからの知識情報化社会を生き抜くための数学とは？

企画代表者：森　園子（拓殖大学政経学部）

指定討論者：船倉武夫（千葉科学大学危機管理学部）

司　会　者：中村竜哉（拓殖大学商学部）

企画説明

・森　園子（拓殖大学政経学部）

「この数学，一体どんなところで使うの？と訊かれたら

－これからの知識情報化社会を生き抜くための数学とは？－」

話題提供

・中村竜哉（拓殖大学商学部）

「商学・経営学における数理的内容－ファイナンスリテラシーと数学－」

　　・田浦　元（拓殖大学政経学部）

「経済学・経済統計における数理的内容」

・船倉武夫（千葉科学大学危機管理学部），岡林　徹（千葉科学大学危機管理学部），

齋藤伸之（千葉科学大学学習支援センター），田口君夫（千葉科学大学，非常勤講師）

「看護・医療系における数理的内容－大学生の数学学力と数学教育に対する意識－」

・堀口智之（和から株式会社）

「社会が必要とする数理的内容と，その現状」

一般研究（午後の部）13：30～17：15　　　（会場）A114講義室

13：30　微積分の記号の意味について視覚的に理解できるようにする

鈴木啓一

13：55　ICTを活用した授業実践に関する一考察

片江康裕（東京都立科学技術高等学校）

14：20　定規ツールの拡大・縮小機能を用いた変化の割合に関するデジタル数学科

教材開発（仮）

－小学校の単元「比例」と中学校の単元「比例」の接続に向けて－

今井壱彦（埼玉大学大学院教育学研究科，大学院生）

14：45　ジェスチャーによるロボット操作を取り入れたワークショップの実践報告（仮）

波形政輝（埼玉県立日高高等学校）

菅原悠平（埼玉大学教育学研究科，大学院生）

並木　惇（埼玉大学教育学研究科，大学院生）

松嵜昭雄（埼玉大学教育学部）

15：10　ジェスチャーによるロボット操作における数学的モデリングの調査に

関する一考察（仮）

－小学生を対象としたワークショップを事例として－

並木　惇（埼玉大学教育学研究科，大学院生）

菅原悠平（埼玉大学教育学研究科，大学院生）

松嵜昭雄（埼玉大学教育学部）

15：35　小学校における教材研究を考える

－倍数・約数とトランプゲーム－

古川　俊（神奈川学園精華小学校）

16：00　数学と言語

－数学はほんとうに言語なのか？－

植野義明（東京工芸大学工学部）

16：25　数学史とICTを用いた実験授業における学習者の解答分析（仮）

－2次方程式の虚数解の取り扱いに着目して－

鈴木大樹（埼玉県立不動岡高等学校）

16：50　五感を活用した数学授業の提案に向けての一考察（仮）

－身体化理論との比較に焦点を当てて－

大川健史（浦和実業学園高等学校）

５．会費

一般 2,000 円，学生 500 円

６．原稿提出期限，原稿作成方法

（1）原稿提出締切 8月18日（土）17：00 まで

（2）原稿フォーマット・原稿形式

・年会・例会フォーマットに準拠し，頁数は最大 4 ページまでです。

ページ番号は入れないで下さい。

・原稿 1 頁右上に，「2018年度数学教育学会夏季研究会（関東エリア）発表

予稿集」と記入して下さい。

・原稿提出は、E-mail の添付ファイルにて，Word 形式とPDF 形式の両方を

送信して下さい。

７．原稿提出及び連絡先

埼玉大学教育学部　松嵜昭雄（E-mail：makio@mail.saitama-u.ac.jp）